赤武エンジニアリング株式会社 社内報

Akatake Times

BIMONTHLY
July | 2017
Vol. 19
（通算　第172号）

梅雨はまだ続いていますが、暑さも日々増していき、本格的な夏の季節もすぐそこまで来ているようです。
暑くなりはじめや、急に暑くなる日など急激な温度変化がある時に熱中症を引き起こしやすいと言われてます。
体調管理には十分に気をつけましょう。

『25年ぶりの爪木崎』

私は三兄弟ですが、先日全員揃ったので、バイクでツーリングに行く事になりました。
三兄弟でのツーリングは初なので、目的地を決めるのに迷いましたが、最終的に伊豆の下田に決定しました。
下田の観光スポットといえば白浜海水浴場などがありますが、そこからバイクで15分くらいの爪木崎へ行きました。

爪木崎は、花や海が綺麗で溶岩が固まってできた岩などが有名です。
私は幼少期、下田で育ち両親に爪木崎に連れて行ってもらった思い出があります。
25年ぶりに訪れたので、とても懐かしい気持ちになりました。

撮影日：　2017年1月3日　　撮影と文：　製造部 製造課　　渡邊　悠介

日々、生かされて

七夕の短冊に歌や文字を書いたから、7月を文月と言うそうです。
暑い夏がやってきます。体調管理には万全を期していきましょう。

『その思い　投票しなきゃ　伝わらない』

◆投票率と沼津気質

6月25日静岡県知事選の投票が行われ、川勝知事が3選を勝ち取りました。
2期の実績を活かした県政運営を願うばかりです。
投票率ですが、県全体で46.44%と前回より3.05ポイント下回る結果となっています。ここ沼津市はどうかというと、38.83%と県内で2番目に低い投票率になっています。有権者数165,278人の内、投票した人は64,185人と惨憺たる数字で、実に情けなく憤慨に堪えません。
どうしてこうなってしまうのか理由がわかりません。
東西に長い静岡県の特徴を言い表した言葉を聞いたことがあります。

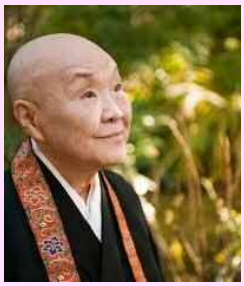
浜松は、“やらまいか精神”ですぐやる、
静岡は、“会議、会議でなかなか進まない”、
沼津は、“俺が、俺が”で、“総論賛成、各論反対”で進まない

というなかなかに面白い表現です。
高校時代まで小笠町（現　菊川市）という田舎で住み暮らした私にとって当時、沼津は大都会で活気のある街という印象があります。投票率と沼津気質とは因果関係があるのでしょうか。市政、県政に参加する行動があってこその主義・主張かと思います。
そういえば、私も沼津に移り住んで40年ですが、わからない事ばかりです、反省。

◆懸命に生きる人から教わること

5月6日の静岡新聞記事・・・
富士宮の清文子さん（75）が、国指定難病の色素性乾皮症（日本国内では2.2万人に1人の頻度で発症。患者数は500人前後と推定）と闘う孫・麟太郎さん（13）の日常の言葉を書き綴った詩集「りんくんのうた」を出版したとの記事がありました。
麟太郎さんは年々聴力が悪化していて数年後には聴力が失われる可能性があり、足の力も弱くなり、大好きな自転車にも乗れなくなったようです。日光に当たると皮膚がんになる確率が極めて高いので、日没後や夜明け前に祖父母と散歩に出かけるなどしているとのことです。
『りん君は、できないとは決して言わず、今できることを考えて工夫している。りん君が詩集を気に入ってくれてよかった。一日でも早く治療法が見つかってほしい』と文子さんは願っています。
ここに懸命に生きている若者とサポートする祖父母がいます。
今を懸命に生きる人から教えられることが多いです。

◆自分をさらけ出す



5月5日、作家で僧侶の瀬戸内寂聴さん（94）が名誉住職を務める岩手県二戸市の天台寺で法話を行ったとの新聞記事がありました。
『気分が落ち込むことがある。そういう時は、楽しい事を一生懸命考える努力をした方がいい。いやなことが多い世の中に負けては駄目』と説き、聞きに来た人が5千人で、今や観光名物になっているとのことです。
『法話を聞くのは6回目。自分の失敗をさらけ出し、前向きな姿勢に毎回元気をもらう』と法話を聞いた一人が言っていました。
“人に感動を与えるとは、自分をさらけ出すこと”でしょうか。

◆実るほど頭を垂れる稲穂かな

社内報18号で触れた14歳の藤井四段が、大記録29連勝を達成。
思わずおめでとう！
“僥倖、望外”など古風な単語をあやつる少年。AI将棋も利用して勉強するようです。
「なんでも思いどおりにはいかないことを覚えられる。相手を思いやり、気持ちを考える習慣がつく」という将棋の効用があるそうです。
師匠、親御さんなど、彼を指導している方々にも大きな拍手です。
実るほど頭を垂れる稲穂かな・・・
大成してもいつまでも謙虚でいてくださいと願わずにはいられません。

今回は、新聞紙面で教わったことを書いてみました。
ご安全に！

代表取締役社長　　赤堀　肇紀

今月の一言

【初めて扱う粉体】

常務取締役　秋元　祐

私が入社して38年が過ぎました。つまり、粉体と関わってから38年が経過した訳です。しかし、未だに極めたとか自信があるといった実感はありません。それが「粉は魔物」とか「粉体は経験工学」と言われる由縁だと感じています。数多くの失敗を経験し、それが知識として積み上げられていくはずなのですが、追い打ちを掛けられるように新しい物性の粉体が現れて、そこでまた勉強です。38年間ずっとずっとその調子でやってきた気がします。 そこで**“若い（？）頃の経験”**を一つ。

今から約22年前の物件でお客様は関西地区の化学会社でした。粉体名はDD粉としか教えて頂けず、微粉末であったと記憶しています。ホッパの下にハイフロー1500を設置し、下部の反応槽へ供給する設備でした。現地で試運転を行い、初日は順調に問題なく終了しました。翌日になって試運転を再開しようと供給機をONしたところ、いきなりモータのサーマルがトリップし、ピクリとも動きません。
何が起きたのか判らず、とにかくホッパのマンホールを開けて、中を確認しようということになりました。粉体が流れ出ると困るので養生をして開けたところ、流れ出るどころか固まっていました。その固まり方が尋常ではなく、指どころかスコップも思うように入らない位の堅さでした。圧密（脱気）です。
それも一晩で。最終的な対策としてはエアで流動化するしかないと考え、ホッパの底部や供給機にもたくさんのノズルを追加し、粉体を供給しない時も定期的にエアを流しながら、供給機を運転するように改造をしていきました。お客様からは早く立ち上げるように攻められ、対策案を試行錯誤しながら何度も夜遅くまで打ち合わせしている時は針のムシロでした。そこまで圧密してしまう粉体は、当社としても初めて経験するものでした。

数年前に営業がその会社を訪問した際、何事も無かったかのように当たり前に運転していたそうです。納入前の事前テストで、粉体を一晩放置しておいたらどうなるか？のテストを実施していたら、現場であんなに苦労しなくて済んだはずです。初めての粉体を扱う機械はできる限り本番に近い条件での事前テストが必要であると思い知らされた例でした（反省！）

この例以外にも数多くのトラブルを経験し、その中から特許に繋がるアイデアが生まれてきているのも事実です。高い授業料を払ってきましたが、そのお陰で当社の粉体ハンドリングメーカとしての今の位置づけがある訳です。これからも日々勉強です。

コラム
—column—

普段何気なくしゃべっている言葉。本当に、正しく使えていますか？

私たちが普段何気なくしゃべっている日本語。特に難しいと感じることはないと思います。
でもちょっと待ってください。果たしてその言い回し、本当に正しいでしょうか？
下表は、間違って使われやすい言い回しベスト10をまとめたものです。

順位	本来の言い方	異なる言い方	誤用率
1	間が持てない	間が持たない	68.3%
2	声を荒（あら）らげる	声を荒げる	63.9%
3	足をすくう	足もとをすくう	61.3%
4	采配を振る	采配を振るう	58.7%
5	怒り心頭に発する	怒り心頭に達する	54.3%
6	押しも押されもせぬ	押しも押されぬ	52.0%
7	熱に浮かされる	熱にうなされる	51.8%
8	上には上がある	上には上がいる	51.1%
9	愛嬌を振りまく	愛想を振りまく	49.3%
10	触手を伸ばす	食指を伸ばす	40.5%

資料：㈱小学館『本来と異なる言葉・言い方で使用される言葉ランキング』より作成

いかがでしょうか？
みなさんは、どのくらい正しく使えていましたか？

上記以外にも、間違って使われやすいのが「喧々諤々（けんけんがくがく）」でしょう。
大勢の人がやかましく騒ぎたてるさまを表す「喧々囂々（けんけんごうごう）」と、正しいと思うことを堂々と主張するさま、盛んに議論するさまを表す「侃々諤々（かんかんがくがく）」がゴチャマゼになってしまったものです。

でもこの「喧々諤々（けんけんがくがく）」ですが、あまりに誤用され過ぎて、ついには市民権を得てしまい大辞林や広辞苑で「喧々囂々と侃々諤々とが混交して出来た語」として掲載されるに至りました。
たとえ間違った言い回しでも、使われ続ければ、それも正しい日本語として認知されていくのですね。

でもやっぱり日本人ですから、なるべく間違えないよう意識し、的を~~得た~~射た発言を心掛けましょう！